

# SPORTS LEGACY Report 2020

東京マラソン財団 「スポーツレガシー事業」のご報告

Dream



スポーツの  
夢  
強化育成

アスリートの強化  
ジュニアアスリート育成  
キャリア支援

Environment



スポーツの  
礎  
環境整備

スポーツ施設などの  
環境整備

Expansion



スポーツの  
広がり  
普及啓発

スポーツ大会の支援  
及び普及啓発

Contribution



スポーツの  
力  
社会貢献

スポーツイベント等を通じた社会的課題  
解決への試み



## Innovation & Inclusion

未来に遺すスポーツを、今つくる。

近年、スポーツへの期待が高まる中、スポーツそのものが持つチカラにも関心が高まっています。

競技スポーツやレクリエーションスポーツといった枠組みを問わず、

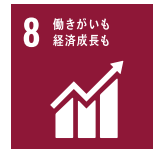
「スポーツ」が起点となって、21世紀の東京そして日本に「明るい未来へとつながるレガシー」を遺していきたい。

そんな想いから「スポーツレガシー事業」は始まりました。

「スポーツが後世に遺せるものは何か」について語り合い実践する場を提供することで、  
スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承を目指します。

スポーツレガシー事業 公式ウェブサイト ▶ <https://www.sportslegacy.jp>

東京マラソン2020は、チャリティ事業を通して  
国連で採択された  
SDGs(持続可能な開発目標)の  
実現に取り組んでいます。



## チャリティ・アンバサダーのご紹介



スポーツレガシー事業への寄付を呼びかける「チャリティ・アンバサダー」として、以下の4名が年間を通して積極的に活動を行っています。



### チャリティ・アンバサダーより (写真後列左から)

しかの あつし

**鹿野 淳 さん** (音楽ジャーナリスト)

走ることは独りだけど繋がろうとすること。自分らしくあるために、さあ共に！ ロックを中心に、音楽ジャーナリズムを30年間、追求し続けています。大型フェスを20年間プロデュースし続け、新しい音楽の現場作りに日々励んでいます。生きることは走ること、走るとは自分を示すこと、自分を示すことはロックすること。全力で生きるための活動をしています。2021年の東京マラソンは今までなかった全く新しい挑戦、2年越しの夢と希望の結晶です。人間あっての地球だからこそ、あるべき人間の力を発揮して成功に導きましょう！

おおしま

**大島 めぐみ さん** (女子マラソン元日本代表)

スポーツのあり方、スポーツにできること、スポーツの持つ力を今まで以上に信じて前に進むこと。東京マラソンだからこそ繋がる輪を、スポーツレガシー事業を通して多くの方々とこの輪を沢山繋げていくように活動をしていきたいと思っています。

なかむら ゆう

**中村 優 さん** (タレント)

様々な大会が中止になり、ランナーとして、ボランティアとして、沿道の応援として参加予定だった方たちは、悔しい思いをされたかもしれません。こんな時だからこそ、走ることが自分らしく元気でいられる秘訣だと実感しています。スポーツがどんな時でも力になってくれること！ これからも伝えていきたいと思っています。

えむ たかし

**M 高史 さん** (ものまねアスリート芸人)

ものまねアスリート芸人・M高史です！ スポーツレガシー事業のチャリティ・アンバサダーを務めさせていただいております！ ランニングやスポーツを通じて、1人でも多くの方が心身ともに健康で元気で笑顔になられることを願っています！ スポーツというレガシーをタスキリレーのように人から人へ、そして未来へつなげていきたいです！

## スポーツレガシー事業運営委員会のご紹介



### 委員長

**早野 忠昭** Tadaaki Hayano

東京マラソン財団事業担当局長 / 東京マラソンレースディレクター

東京マラソンチャリティで集まった人々の想いを基盤としながら、「みんなの手で創り出し、つないでいくレガシー」というコンセプトを掲げ、「スポーツが後世に遺すもの」つまりスポーツの「レガシー」の創造と継承を、東京マラソンのミッションとして取り組んでいきます。

東京マラソンらしく、革新的でありながら誰もが参加できるよう、「Innovation & Inclusion」を目指していきたいと思っています。私たちの生活が豊かで幸せなものになったと実感できるように、ぜひスポーツレガシー事業を応援してください。

### 委員



**為末 大** Dai Tamesue

元プロ陸上選手

**平野 了** Ryo Hirano

日本陸上競技連盟 強化部 強化育成課長

**清水 俊二郎** Shunjiro Shimizu

東京都オリンピック・パラリンピック準備局  
スポーツ推進部調整課長



## ダイヤモンドアスリートプログラム

主催：公益財団法人日本陸上競技連盟  
※運営費の一部にスポーツレガシー事業寄付金を充当しました。

ダイヤモンドアスリートの個人写真はこちらから



**目的** 陸上競技を通じて、豊かな人間性を持つ国際人となり、今後の日本および国際社会の発展に寄与する人材として期待される競技者を育成する。



### 2019-2020認定「ダイヤモンドアスリート」(8名)

[写真左より]塚本 ジャスティン 惇平<100m/200m>、藤原 孝輝<走幅跳>、小林 歩未<100mH>、海鋒 泰輝<走幅跳/200m>、出口 晴翔<400mH>、クレイ アーロン 竜波<800m> [欠席]中村 健太郎<やり投>、鶴澤 飛羽<100m/200m>

### ダイヤモンドアスリート修了生(16名)

宮本 大輔<100m/200m>、井本 佳伸<200m/400m>、高松 智美 ムセンビ<3000m>、藤井 菜々子<競歩>、長 麻尋<やり投>、橋岡 優輝<走幅跳>、江島 雅紀<棒高跳>、池川 博史<やり投>、山下 潤<100m、200m>、犬塚 渉<100m、200m>、サニブラウン アブデル ハキーム<100m、200m>、北口 榛花<やり投>、北川 貴理<400m>、岩本 武<400m、障害>、平松 祐司<走高跳>、佐久間 滉大<走幅跳>

[敬称略]

## 1 リーダーシッププログラム

「自立-自ら考える、決める、動く-」をテーマに、ゲストスピーチ・専門家講話・振り返りを組み合わせた研修会(各回240分×3回)を実施しました。

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| 目標とする<br>「国際的なリーダー」の<br>3要素 | 1.高い競技力を支える思考力と向上心<br>2.国際的に通用する発信力と存在感<br>3.スポーツだけでなく社会により影響を与えることができる |
|-----------------------------|---|

### 第1回 2019年11月25日(月)

[スペシャルゲスト講話]

廣瀬 俊朗氏(元ラグビー日本代表、株式会社HIRAKU代表取締役)  
「TOPアスリートの道に進む分岐点」「TOPアスリートのマインドセット」「キャプテンとは」「チームとは」「プレッシャーとの向き合い方」「リーダーシップとは」「セカンドキャリア」と多岐にわたる話題で、全ての選手にとって学ぶところや気づくポイントを多く提示できました。(モデレーター: 為末 大氏)



### 第2回 2020年2月27日(木)

[体験型ワーク]

“簡易義手の組み立てキット”を用いた「体感型社会貢献プログラムHelping hands」自分の意見を主張できない、集合の力を活かせない、という弱点が見つかりました。

[専門家講話]

田中 ラオウ氏(画家、カリカチュア世界大会【ISCA convention】優勝)  
「プロフェッショナルの心構え」として、自身の世界チャンピオンを目指す人生の中で得た学びがわかりやすいキーワードで語られました。

[フリーコミュニケーション]

朝原 宣治氏・為末 大氏  
新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する中で、「いま制限される環境の中で体と心を維持するために何をしているか?どうすべきか?」「今回のこのような出来事から何を学び、どう活かすべきか?」等を対話しました。

### 第3回 2020年2月28日(金)

[専門家講話]

田島 充士氏(東京外国語大学大学院准教授)  
テーマ:「世界で活躍するためのコミュニケーション力:言語と文化の心理学」

[スペシャルゲスト講話]

大山 峻護氏(元総合格闘家)  
テーマ:「巨大な壁を打ち破れ」



## 2 語学研修

海外遠征に行く際には最低30%の語学研修(通学・オンライン)を利用することを義務付けています。2020年3月より通学での語学研修は新型コロナウイルスの関係で中止となっていますが、今後も利用できるようサポートしていきます。

## 4 海外遠征・合宿サポートプログラム

6名の選手が当サポートを活用。  
2019年4月/江島 雅紀選手(アメリカ合衆国)  
2019年8月/クレイ アーロン 竜波選手・橋岡 優輝選手(スペイン)  
2020年1月/海鋒 泰輝選手・出口 晴人選手(アメリカ合衆国)  
2020年2月/クレイ アーロン 竜波選手(オーストラリア)  
2020年2月/小林 歩未選手(アメリカ合衆国)

## 3 栄養サポート

単身で海外遠征・合宿へ行く選手が増え、積極的に活用されました。自炊を始めた大学進学者も、栄養面を重視した食事を摂れています。

## 5 国内遠征サポート

該当種目における専門のコーチのもとダイヤモンドアスリートを派遣し、トレーニングを行うためのサポートを実施。2019年度は藤井 菜々子選手、出口 晴人選手が当サポートを活用。



## NEXT >> 2020年度に向けて

ダイヤモンドアスリートプログラムは開始から6年経過し、おかげさまで順調に進行しています。東京オリンピックは延期となってしまいましたが、日本代表として内定した藤井 菜々子選手<競歩>を含め、競技的にも非常に重要な時期です。「東京マラソン2020」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一般の部が中止となり、寄付者のみなさまも多大なる影響を受けている状況かと思えます。そのような中、ダイヤモンドアスリートが不自由さを感じずにチャレンジを続けていけることに、深く感謝申し上げます。このような状況だからこそ、彼らが期待されていることが、何かを考える機会になっていると感じております。また、当事業がスポーツ界における果たすべき役割を担っていければと思います。



# EXCEEDチャレンジプログラム

主催：一般社団法人日本実業団陸上競技連合  
※運営費の一部にスポーツレガシー事業寄付金を充当しました。  
※2020年度以降は「実業団マラソンチャレンジプログラム」として活動していきます。

Project EXCEED®の  
詳細は  
こちらから



## 【目的】

国際的な競技会で活躍できる  
新たなマラソン選手の育成・強化により、日本陸上競技界の発展に寄与する。

### 1 第48回全日本実業団ハーフマラソン大会

開催日：2020年2月9日(日)  
場 所：山口県  
参加者：男子ハーフ 157名、女子ハーフ 53名  
結 果：  
男子ハーフ 優勝 ルンガル・ジェームス(中央発條) 1:00:27  
2位 古賀 淳紫(安川電機) 1:00:49  
3位 鈴木 大貴(YKK) 1:00:50  
女子ハーフ 優勝 竹山 楓菜(ダイハツ) 1:09:12  
2位 筒井 咲帆(ヤマダ電機) 1:09:14  
3位 池満 綾乃(鹿児島銀行) 1:09:16

### 2 実業団マラソン強化合宿

※実業団連合強化委員会推薦競技者による選抜合宿  
●男子マラソン強化合宿(夏)  
実施期間：2019年7月21日(日)～31日(水)  
場 所：北海道釧路市  
参加者：選手・スタッフ(計15名)  
●男子マラソン強化合宿(冬)  
実施期間：2020年1月7日(火)～16日(木)  
場 所：鹿児島県奄美市  
参加者：選手・スタッフ(計27名)



### 3 海外遠征

※2018-2019シーズンの連合主催および主要マラソン、ハーフマラソンにおいて  
優秀な成績を取った競技者を強化委員会の推薦を受け派遣

●Bank of Americaシカゴマラソン  
開催日：2019年10月13日(日)  
結 果：男子  
13位 大石 港与(トヨタ自動車) 2:11:02  
20位 早川 翼(トヨタ自動車) 2:12:25  
21位 竹内 竜真(日立物流) 2:12:45

●アメリカズ ファイネスト シティハーフマラソン  
開催日：2019年8月18日(日)  
結 果：女子  
1位 林田 みさき(豊田自動織機) 1:13:47  
2位 矢野 菜理(キャノンAC九州) 1:15:11

●ゴールドコーストマラソン  
開催日：2019年7月7日(日)  
結 果：男子ハーフマラソン  
4位 早川 翼(トヨタ自動車) 1:03:29  
18位 大石 港与(トヨタ自動車) 1:06:24

●グレートノースラン  
開催日：2019年9月8日(日)  
結 果：男子ハーフマラソン  
8位 小松 巧弥(NTT西日本) 1:01:35  
12位 細谷 恭平(黒崎播磨) 1:03:39  
17位 坂東 剛(大阪ガス) 1:05:21  
19位 山本 翔馬(NTT西日本) 1:06:40

## NEXT» 2020年度に向けて

2015年より、2020年東京オリンピックでのメダルの期待がかかるマラソンの強化ため、特別強化プロジェクト「Project EXCEED®」を立ち上げ、強化策を講じてきました。  
その結果、男子においては、東京マラソン2018において設楽選手(Honda)が16年振りに日本新記録を更新したのを皮切りに、同年の2018シカゴマラソンで大迫選手(Nike)がその記録を破り、東京マラソン2020において更に記録を伸ばし、3度の日本記録が更新されるなどの成果を生みしました。  
「Project EXCEED®」は2020年3月に終了しましたが、2020年度も引き続き、男女ともに日本のマラソンと世界のマラソンの差を縮めるため、新たな選手の「発掘」を含めた強化策を継続的に取り組んでいきます。



# ランニングコース整備

主催：一般財団法人東京マラソン財団  
※運営費の一部にスポーツレガシー事業寄付金を充当しました。

## 【目的】

ランナーが仲間とともに楽しくランニングを継続し、  
健康増進していける環境の整備をサポート。

詳しい  
コース  
マップは  
こちらから



### ランニングコース整備

■ 国営昭昭記念公園(立川市・昭島市)内に、昨年度のスポーツレガシー事業寄付金で開設したウォーキング・ランニングコースの整備を行いました。

公園来場者人数：  
約**3,881,628**人  
(2019年度実績)

— 水のコース(2.5km)  
— 広場のコース(3.9km)  
— 森のコース(5.6km)

■ コース体験機会と認知促進のためランニングイベントを開催

1) Park Fitness × SPORTS LEGACY  
～オリンピック  
大島めぐみによる  
マラソンサブ4クリニック～

・開催日：  
2019年8月3日(土)  
・講師：大島めぐみ  
・開催場所：水・広場・  
森のコース、ふれあい広場

2) 大島めぐみの  
ランニングクリニック  
『東京マラソン2020  
チャリティ完走を目指して!』

・開催日：  
2019年11月16日(土)  
・講師：大島めぐみ、大森 盛一  
・開催場所：水のコース、  
ふれあい広場

3) 新春！  
昭昭記念公園  
リレーマラソン2020

・開催日：  
2020年1月5日(日)  
・開催場所：水のコース  
・種目：リレーマラソン、  
10kmタイムトライアル、  
親子ラン

## NEXT» 2020年度に向けて

国営昭昭記念公園に続き、国営ひたち海浜公園(茨城県ひたちなか市)においても、ランニング環境の向上により利用者の健康増進や利用促進、公園事業のサポートを目的として、ランニング・ウォーキングコースを整備する予定です。新型コロナウイルス感染症拡大が一日も早く収束し、広い公園で天気の良い日に、景色を楽しみながらのウォーキングや、気軽なジョギング、日々のトレーニングとしてのランニング等にご利用いただけるよう計画中です。今後も、公園が「医療費の増大など、社会的課題の解決へとつながる健康拠点」として多くの方に活用されていくことを目指し、本事業を発展させていきます。



# キッズアスレティクス× 東京マラソンスタイル・とうほくキャラバン

主催：日本キッズアスレティクス協会  
(一般社団法人フューチャースレティックス)  
※運営費の一部にスポーツレガシー事業寄付金を充当しました。

【目的】子どもたちのスポーツ基礎力を高めるとともに、陸上競技への関心が高まるようサポートする。

## 東京マラソンスタイル

■東京マラソンのコース沿道にある小学校(計5校)で特別事業として、「キッズアスレティクス」(11月)と「ミニ東京マラソン」(2月)を実施しました。

講師(敬称略):大島 めぐみ、大森 盛一、岸 政智、田中 悠士郎、徳田 由美子、ハニカット 陽子、堀籠 佳宏、森 健一、小林 敬和、日本女子体育大学生

- 台東区立浅草小学校[4年生**55名**参加]  
実施日:2019年11月13日(水)・2020年2月7日(金)
- 港区立南山小学校[3・4年生**72名**参加]  
実施日:2019年11月20日(水)・2020年2月19日(水)
- 千代田区立和泉小学校[3・4年生**85名**参加]  
実施日:2019年11月21日(木)・2020年2月20日(木)
- 新宿区立愛日小学校[3年生**74名**参加]  
実施日:2019年11月26日(火)・2020年2月6日(木)
- 中央区立久松小学校[3年生**120名**参加]  
実施日:2019年11月27日(火)・2020年2月13日(木)

※キッズアスレティクス…子どもの基本的な運動能力(走・跳・投)の向上を促進する世界共通のプログラム  
※ミニ東京マラソン…東京マラソンのコンセプト「走る喜び、支える誇り、応援する楽しみ」に基づいて、走る人(ランナー役)・支える人(ボランティア役や審判等のスタッフ役)・観る人(沿道の応援役)の3グループに分かれ、交代しながらそれぞれ役割を体験するプログラム



■2019年10月27日(日)に、東京都立木場公園(江東区)にて開催。東京都立公園においてキッズアスレティクスの普及を兼ねて一般来場者(子ども)に向けた運動プログラムの提供と、かけっこイベントを併催。キッズアスレティクスは6種目を配置し、各回50名程度(計100名程度)が参加しました。

講師(敬称略):堀籠 佳宏、君野 貴弘、徳田 由美子、田中 悠士郎、森 健一、田子 雅、伊藤 詩織、小林 敬和

## とうほくキャラバン

東日本大震災の被災3県の小学校(計9校)で、キッズアスレティクスとミニ東京マラソンの特別授業を実施しました。

講師(敬称略):大島 めぐみ、大森 盛一、君野 貴弘、鈴木 翔子、徳田 由美子、田中 悠士郎、堀籠 佳宏、森 健一、小林 敬和、清水 茂幸、天下谷 真弓、佐藤 友香、北村 なお美、岩手大学生、中央学院大学生



### 福島県

- 南相馬市立石神第一小学校[3~6年生約**40名**参加]  
実施日:2019年9月3日(火)
- 南相馬市立小高小学校[3~6年生約**47名**参加]  
実施日:2019年9月4日(水)
- 飯館村立飯樋小学校[3~6年生約**13名**参加]  
実施日:2019年9月5日(木)

### 宮城県

- 仙台市立東二番丁小学校[3~5年生約**80名**参加]  
実施日:2019年9月9日(月)
- 登米市立東郷小学校[3~5年生約**75名**参加]  
実施日:2019年9月10日(火)
- 柴田町立船迫小学校[3年生約**54名**参加]  
実施日:2019年9月11日(水)

### 岩手県

- 宮古市立宮古小学校[3・4年生約**67名**参加]  
実施日:2019年9月17日(水)
- 宮古市立磯鶏小学校[3・4年生約**78名**参加]  
実施日:2019年9月18日(木)
- 宮古市立鍛ヶ崎小学校[3・4年生約**45名**参加]  
実施日:2019年9月19日(金)

**NEW**  
2020年度に  
向けて

## 2020年度からは「キッズウェルネス事業」として拡充!

「ミニ東京マラソン」等の実施校(小学校)を全国から広く募集します!

以下4つの目的のもと、さらに多くの子どもたちに運動の魅力伝えていきます。

- ①子どもたちのスポーツ基礎力を高め、陸上競技やランニングへの興味関心を高める
- ②子どもたちにスポーツやランニングの様々な楽しみ方を知ってもらう
- ③日常的にスポーツやランニングに親しむことで、生涯を通じて、スポーツやランニングを実践しながら健康で文化的な生活を送れるよう、フィジカルリテラシーを育てる
- ④スポーツを通じて、コミュニケーションや自己表現方法などの社会適応能力を体得しながら、ルールやマナーの大切さを学んでもらい、ハラスメントの被害者・加害者になることを未然に防ぐ





## パラ陸上チャレンジサポート

主催：一般財団法人東京マラソン財団

**目的** パラ陸上の体験機会を創出して魅力を伝え、参加者がその後も陸上競技やスポーツを愛好し、意欲的に継続できるようサポートする。

### 「ファミリーラン」車いすの部の運営サポート／車いすエリート選手(東京マラソン2020出場者)による学校訪問・特別授業

ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

#### NEXT 2020年度に向けて

中止となった2つの取り組みについては、引き続き次年度の実施を予定しています。また、2020年度以降の新たな取り組みとして、定期的な教室の開催等、パラ陸上にチャレンジするアスリートのサポートを拡充していきます。



## キッズ&ファミリンピック(車いすスポーツ交流イベント)

主催：公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

**目的** 日常生活で車いすを使用している肢体不自由児とその家族が車いすバスケットボールを楽しむことで、スポーツへの関心を喚起し、仲間づくりを行う。

### 2019キッズ&ファミリンピックin 草加

日程：2020年1月12日(日)

会場：草加市スポーツ健康都市記念体育館

参加チーム数：10チーム

(参加人数113名、審判・補助員等38名)

肢体不自由児(主に小学生以下)及びその家族(健常児・者も参加可)を対象に、車いすバスケットボールのゲームを楽しんでもらいました。ツインバスケットゴールも併設し、ツインバスケットとミニバスケのルールを採用しました。特に、スポーツに接点が少ない子ども(スポーツ初心者)と保護者等に向けては、スポーツの効用や楽しさを伝えるプログラムも取り入れました。



### 2019キッズ&ファミリンピックin 南大沢(学生との交流含む)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

**NEW**  
2020年度  
に向けて

東京都障害者スポーツ協会登録競技団体による、障害者スポーツ普及事業の開催を支援します。障害者スポーツの各競技団体と共にスポーツ体験や観戦を楽しむ機会を提供しスポーツへの関心を喚起して競技人口を増やしていくこと。また、障害の有無や程度を問わず、卓球愛好者が大会を通して選手相互の交流と親睦を図り、障害の理解や障害者の社会参加の促進に寄与すること。これら2つを目的とします。



## 東日本大震災被災地の育英事業(岩手県・宮城県・福島県)

主催：一般財団法人東京マラソン財団

**目的** 寄付金による支援により、困難に直面している被災地の若者や子どもたちが勇気・希望、そして夢を与える力を持つサポートをする。

お預かりした寄付金を、被災地3県の育英事業対象者(未成年)の人数比率により、「いわての学び希望基金」、「東日本大震災みやぎこども育英募金」、「東日本大震災ふくしまこども寄附金」へ分配しました。

育英事業の対象人数 993人 ※2020年6月9日時点

【内訳】 岩手県 327人 宮城県 565人 福島県 101人



#### NEXT 2020年度に向けて

困難に直面している若者や子どもたちに勇気・希望、そして夢を与える力を持ってもらうため、ランナーの応援する気持ちをお預かりして、スポーツレガシー事業を通じて支援していきます。被災による遺児・孤児が成人になるまで継続します。

2020年度は「東京マラソン2020」におけるみなさまからの寄付金、2021年度は2020年7月(予定)に募集を開始する「東京マラソン2021」におけるみなさまからの寄付金によって実施する事業です。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

※新型コロナウイルスによる感染症拡大の状況、自然災害、不測の事態等により変更になることがありますのでご了承ください。

スポーツレガシー事業-1 スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承

- 夢** 強化育成
  - ダイヤモンドアスリートプログラム(公益財団法人日本陸上競技連盟)
  - 実業団マラソンチャレンジプログラム(一般社団法人日本実業団陸上競技連合) ※「EXCEEDチャレンジプログラム」から名称変更
- 礎** 環境整備
  - ランニングコース整備、活性化(一般財団法人東京マラソン財団)
- 広がり** 普及啓発
  - キッズウェルネス事業(一般財団法人東京マラソン財団)
  - パラ陸上チャレンジサポート(一般財団法人東京マラソン財団)
  - 障害者スポーツ普及事業の開催(公益社団法人東京都障害者スポーツ協会)
  - ランナーサポートプログラム(一般財団法人東京マラソン財団)



New Project 2020年度からの新規事業

「ランナーサポートプログラム」始動!

主催:一般財団法人東京マラソン財団



ランニングライフの充実やランニング指導者の資質向上など、ランニング文化の発展をめざし、2020年度より始動する新しいプログラムです。以下の4つの取り組みを行います。

- ①ランニング指導員養成事業の支援 ②ランニング学研究助成事業の支援
- ③ランニングに関するプロジェクト研究の支援 ④女性アスリート健康支援委員会への支援

なかでも「ランニングに関するプロジェクト研究」では、現在「ランニングと感染症予防」を研究テーマに取り上げ、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、外出自粛時、緊急事態宣言解除後の注意事項について適宜情報発信をしています。

身体運動が免疫機能を高め、感染症予防に有効であると言われてきましたが、近年ようやく科学的根拠が集積されつつあります。

このプロジェクト研究ではランニングライフに焦点を当て、ランニングと免疫機能、感染症予防に関する研究成果を総括し、最新情報を提供し、ランナーのみなさまに役立てていただきます。

スポーツレガシー事業-2 東日本大震災復興支援事業

- 力** 社会貢献
  - 東日本大震災被災地の育英事業  
 (『いわての学び希望基金』、『東日本大震災みやぎこども育英募金』、『東日本大震災ふくしまこども寄附金』へ分配)

Donations これまでの寄付実績

東京マラソン財団 スポーツレガシー事業 スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承

2015大会	2016大会	2017大会	2018大会	2019大会
304件	291件	274件	412件	415件 169件※1
20,435,059円	29,710,312円	30,237,470円	41,823,708円	58,137,406円 14,018,000円

スポーツレガシー事業 2020大会	
1	874件 95,290,006円
2	202件 15,184,118円
計	1,076件 110,474,124円
累計	7,342件 790,578,123円

東日本大震災復興支援事業 被災地の育英事業 いわての学び希望基金、東日本大震災みやぎこども育英募金、東日本大震災ふくしまこども寄附金へ分配

2011大会	2012大会	2013大会	2014大会	2015大会	2016大会	2017大会	2018大会	2019大会
—	—	750件	1,222件	694件	680件	300件	454件	301件
6,500,000円※2	93,505,634円※2	75,192,098円※2	104,136,112円	62,634,200円	50,941,000円	22,131,000円	41,160,000円	29,542,000円

※1 2019大会では「キッズアスレティックス×とうほくキャラバン」の寄付募集を分けて行いました。

※2 2011大会(2011年度)、2012大会(2012年度)、2013大会(2013年度)の寄付金については、被災地3県の育英事業以外の用途も含まれます。

## 「走り」が生む、世界を回す力

世界のランナーに影響を与え続けている東京マラソンは、単なる記録の出やすいコースを持った世界有数の観光地を巡る都市型マラソンではありません。走ることが生み出す力や希望、そして可能性を様々な形で実行したり応援するアクティブなメッセージイベントでもあります。

例えばサニブラウンや橋岡優輝などを輩出し続ける、日本のアスリートが世界に通用するための様々なレクチャーを施す育成プログラム「ダイヤモンドアスリート」。マラソンの楽しさ、つまり走る喜び（ランナー）、支える誇り（ボランティア）、応援する楽しみ（観戦者）を小学校の校庭などを使って子供達に実践してもらおう「ミニ東京マラソン」。そして環境問題や国際問題、医療や障害に対して研究や活動を続けている団体への数々の支援システム。今やすぐさま締め切られてしまうようになったチャリティランナーの皆様が寄付した多くの力は、未来のアスリートの誕生や、困った方々の笑顔のためにダイレクトに役立てられています。

走ることのでられる感動や素直な気持ちは、自分自身のみならず世界を回す力になります。新型コロナウイルス感染症によって、今の世界は分け隔てなく傷ついたり困窮を極めています。明日がどうなるのか？ その明日に向けて何が出来るか？ が雲間に隠れて見え難いからこそ、個人の力をシェアする力に換えることの出来るマラソンで世界と自分のボーダーを一つ一つ超えてゆく——東京マラソンはその大きなホップかステップになると思います。



## 寄付者プログラム

スポーツレガシー事業に寄付をいただいた方には、下記のような寄付者プログラムをご案内しています。今後も実施予定ですので、スポーツレガシー事業に関する意見交換や交流の機会としても積極的にご参加ください。



ダイヤモンドアスリート認定式へのご招待



ランニングクリニックへのご招待



グリーティングカードのご送付

※寄付者プログラムによっては、チャリティランナーや年度別の寄付者に限定された内容も含まれます。また、参加希望者の定員を超過する場合は抽選方式等をとらせていただきますのでご了承ください。

お待たせしました!

クレジットカード・銀行振込による寄付の受付を開始します!!

スポーツレガシー事業公式ウェブサイト(<https://www.sportslegacy.jp>)を通じて、寄付を受け付けています。ご支援よろしくお願いたします。



詳しくはこちらから



寄付や事業についての詳細・お問い合わせはこちらから

# SPORTS LEGACY

TOKYO MARATHON FOUNDATION

スポーツレガシー事業公式ウェブサイト  
<https://www.sportslegacy.jp>

Twitterや  
Facebookでも発信中!  
「#スポーツ  
レガシー事業」



# CHARITY

TOKYO MARATHON 2021

東京マラソン2021チャリティ公式ウェブサイト  
<https://www.marathon.tokyo/charity/>

チャリティお問い合わせ事務局

E-mail [info\\_charity@tokyo42195.org](mailto:info_charity@tokyo42195.org)

Tel 03-4330-8801

受付時間 10:00~17:00(土日、祝日、年末年始を除く)

発行：一般財団法人東京マラソン財団  
2020年6月

